

会 議 録

- 1 会議の名称 令和8年度第1回社会教育委員会議
- 2 会議の日時 令和8年6月26日（金） 午前10時から 午前11時15分まで
- 3 開催場所 川根本町役場 総合支所 2階 会議室
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委員
山下慎吾委員長、中野重男副委員長、西田稔委員、濱谷友子委員、本田喜子委員
山本正和委員、桑原克之委員、岡本彰彦委員
 - (2) 執行機関 （事務局）教育長 石原一則、社会教育課 課長 中村裕好、室長 中村克哉
文化会館主幹 大村泰子、海洋センター所長 中村慎
- 5 議題
 - (1) 令和8年度社会教育事業の概要について
 - (2) 社会教育委員連絡協議会（榛原地区他）について
 - (3) その他
- 6 会議資料の名称
令和8年度社会教育委員会資料（事業計画及び事業報告ほか）

7 発言の内容

【開会】

【教育長あいさつ】

現在、義務教育学校が導入され、多くの学校で新たな展開が進んでいます。義務教育学校として今取り組んでいるのは、従来の「教えて育てる」教育から、「共に育っていく」教育への転換です。

具体的には、従来のように先生が教室で一方的に教え、生徒が前を向いて学ぶ形ではなく、みんなと一緒に学び合う環境づくりを目指しています。

例えば、光の森学園で取り組んでいる「フレンドシップウィーク」があります。これは1年生から9年生までが、先生が見守る中で子供たちが主体的に学び合い一緒になって学ぶ1週間です。

先日、この期間中に社会科の授業を7年生から9年生が合同で行いました。通常は学年ごとに歴史を学びますが、今回は「歴史上の人物で、自分がナンバーワンだと思う人物を選ぶ」という課題を与えました。

その結果、長嶋茂雄、織田信長など多様な人物が挙げられ、それぞれの意見を共有しながら議論が深まりました。子供たちは歴史に関心を持ち、自分の好きな人物を選び、その視点で学びを広げています。

先生が支援をしつつ、子供たちの自主的な学びを促していました。これこそが、教え育てるから共に育つ教育への一歩です。

さらに、社会教育の視点も重要だと考えています。地域の方々が学校に関わり、例えば歴史に詳しい方が授業に参加することで、新たな視点や学びが生まれます。

川根本町では、この「教え育てる」から「共に育つ」教育を目指し、各学園で取り組みが進んでいます。

来年度にはこれらの成果を発表する大きな研究発表会を予定しています。社会教育の視点も取り入れ、皆さんにも積極的に参加いただきながら、川根本町の教育をさらに充実させていきたいと考えています。

【山下委員長あいさつ】

川根本町ではコミュニティスクールという形で、学校と地域との関わりの中でさまざまな取り組みが行われております。これらの活動は、充実した学校教育を支える重要な役割を果たしていると考えております。

社会教育委員もその一翼を担っているという自覚のもと、本日の会議に臨んでおります。

社会教育委員の大切な職務の一つに、法律に基づいた社会教育に関する諸計画の立案があります。まさに本日の会議は、社会教育委員としての本業といえるものであり、川根本町の社会教育をさらに充実させていくために皆様のご協力を賜りたく存じます。会議の場だけでなく、日頃から積極的な関わりをお願いしたいと思います。

また、川根本町社会教育に関係する団体としまして、榛原地区社会教育連絡協議会、中部地区社会教育連絡協議会、県の社会教育連絡協議会がございます。これら各団体では研究会や研修会を積極的に開催しておりますので、お時間が許す方はぜひご参加ください。

さらに、令和10年には静岡県で「全国社会教育研究大会」が開催される予定です。この大会は県の社会教育連絡協議会が主催し、全国から多くの参加者を迎える大規模な行事となります。昨年、横浜で行われた同様の大会にも私と役場職員が参加し、多くの知見を得ることができました。皆様もぜひこの機会に積極的に関わっていただければ幸いです。

【協議事項】（進行：山下委員長）

（1）令和8年度社会教育事業の概要について

事務局より、款項目順・部署別に事業計画について説明。（資料に沿って説明）

〔説明した主な事業〕

放課後子供教室、図書推進事業、施設予約システム運營業務、生涯学習推進事業、生涯学習活動派遣事業、資料館やまびこ運營業務、文化会館運営費、伝統文化伝承館管理運営費、B & G海洋センター事業、カヌー振興事業、社会体育施設整備事業、市町対抗駅伝競走大会参加事業、体育施設費、はたちの集い等

（委員）中学校の部活動について、川根本町の現状を教えてください。

（事務局）令和5年度から全国的に中学校の部活動の地域クラブ化が進んでいる。川根本町では、学校の部活動、地域指導者によるクラブ活動、地域クラブ認定の三つの選択肢があり、子どもたちは多様な活動から選べるようになっている。単独チームが作れない場合は、複数の学校と協力してチームを形成している。

（委員）社会教育事業に部活動に関する事業はありますか。

（事務局）地域、学校、社会教育の三つの柱がありますが、部活動に特化した事業は概要には含まれていません。

(委 員) 地域学校協働活動について、ボランティアが 200 人とありますが、実際はどの程度の人数ですか。

(事務局) 子どもの活動支援ボランティアは、延べ約 200 人、実人数は約 50 人。地域農家や更生保護女性会、交通安全ボランティアなど、多様な団体が関わっている。

(委 員) 移動図書館の利用数が減少しているとのことですが、対策はしているのか。

(事務局) 利用者減少が続いているが、利用促進を図るため約 2 年前に運行ルートの見直しを行なった。地域のステーションで貸出ゼロの場所もあるが、お年寄りなど図書館まで足を運べない方への支援や地区要望もあり、継続運行をしている。

(委 員) プロスポーツ連携事業について教えてください。

(事務局) 令和 7 年度から開始。地域クラブの子どもたちがプロスポーツ選手から指導を受ける機会を調整中。予算の課題もありますが、今後も拡充を目指す。

スポーツクラブ等との交流や観戦ツアーなどを実施し、全年齢での連携を推進していく。

(委 員) 町営下泉グラウンドの使用回数が減っていると聞く、年に数回の試合しか使われず、維持管理のためにも、もっと練習に使えるよう考えてほしい。

(事務局) 町営野球場（下泉グラウンド）は利用が減少傾向にある。維持管理の観点から利用促進を図りたい。町外チームの利用受入れも検討材料と考える。

(委 員) テニスコートは町外の利用者が増えているとのことですが、利用状況はいかがですか。

(事務局) テニスコートは町外利用者が増加しているものの、部活動との調整が必要となる。施設の利用調整は難しいが、子どものニーズを最優先し、選択肢の幅を広げることを目指します。地域クラブやプロスポーツ連携を活用し、生涯スポーツ・生涯文化の実現を目指します。

(他に質疑等なし)

(2) 社会教育委員連絡協議会研修会について

事務局より、榛原地区、中部地区及び静岡県の社会教育委員会研修会事業報告について説明。

[主な説明内容]

(榛原地区) 研修会

(中部地区) 合同研修会

(静岡県) 関東甲信越静研究大会
研修会

事務局より、榛原地区、中部地区及び静岡県の社会教育委員会研修会事業計画について説明。

[主な説明内容]

- ・榛原地区の構成市町と事務局（川根本町：令和 7 年度・8 年度）
- ・中部地区の構成市町と事務局（御前崎市：令和 7 年度・8 年度）
- ・榛原地区及び中部地区の総会、研修会 7/24 実施、視察研修 11 月予定
- ・静岡県の連絡協議会の理事会、総会、関東甲信越静研究大会

(質疑等なし)

【閉会】

令和 8 年 6 月 26 日

上記に相違ないことを確認する。

川根本町社会教育委員会 委員長 山下 慎吾